

## 発刊のことば

このたび、当研究会の機関誌として「緑化工技術」を発刊することになりました。当研究会は昭和41年1月に発足しましたが、定例会、現地検討会、研究発表会を中心に地道な活動が続け、会員の実質的な勉強会としての性格を保持してきました。そして形式的な刊行物の発行などは雑用を増加させるだけで実質的效果はうすいという判断でできるだけ避けてきました。そういう性格を持ちつづけたことが当研究会が永続した一つの原因だったともいえます。

しかしながら、会員数が漸増し、会員全員が一堂に会し、自由に討議することが難しくなって来た現在では、会そのものの性格も変えざるを得なくなりました。この方針は47年3月に当会が「日本緑化工研究会」に改称した際に討議決定されており、機関誌の発行も決められました。それを実施に移すには実行機関として役員、幹事、事務局の強化、財政面での裏付けを必要とし、関係者の御助力を得てようやく、第1号を発刊できるようになりました。第1号では会のいままでの経過、会員名簿などこの会の性格を明らかにする内容しかのせてありません。これは新しい会員、これから会員になろうと希望される方にこの会の性格を正しく理解していただくために必要だと考えたからです。

この会は緑化工の技術向上に熱意を持つ研究者、技術者の討議の場であります。この機関誌はその討議に最大限に役立つものでなくては存在意義がありません。それには会員各位の積極的な参加が必要であり、御助力をお願いする次第であります。

緑化工は単なる土木工事の附属作業から、環境保全、景観保持のための積極的な働きかけという意味に転換しつつある時期といえるでしょう。当研究会の果たすべき役割はますます大きくなるでしょう。この機関誌が十分な役割を果たすよう皆様と共に育てあげたいと思っております。

昭和48年3月16日

日本緑化工研究会会長

倉 田 益 二 郎